

「カリキュラムサポート室」の御案内 ～先生方の力量を高めるための支援事業～

県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発班

1 「カリキュラムサポート室」とは

カリキュラムサポート室は、視聴覚資料が揃うメディアルームと、図書資料を自由に閲覧できる3つのサポートルームの計4部屋からなっている。県総合教育センターの本館1階にあり、先生方が教師としての力量を高めるためのサポートを担う場所である。

大きく、3つの教育支援活動を行っている。個人の研修や、学校の課題解決に役立てていただきたい。

2 3つの教育支援活動の紹介

(1)豊富な資料の提供

様々な図書（教科書・教育書・教育雑誌）や視聴覚教材（情報モラル・防災教育・人権教育等）、研究報告書（県内外教育機関・県長期研修生研究報告書）、学習指導案等が取り揃えられている。

日々の教材研究や教育研究を行う際の先行研究調査等に御活用いただきたい。



(2)自主研修・グループ研修の場の提供

豊富な資料をもとに、各サポートルームで自主研修を行うことができる。事前に問い合わせいただければ、グループで研修を行うこともできるため、研修室を御利用の際は、御相談いただきたい。

(3)「いつでも どこでも オーダーメイド研修」

個人の課題について、日程・内容等を自分で決めることができるオーダーメイド研修である。カリキュラムサポート室開室日であればいつでも受講することができ、来室して対

面で受講するのはもちろん、オンライン（要相談）で、どこでも受講することができる。

詳細は、当センターWebサイトで確認いただきたい。受講を希望する場合は、研修履歴システム（Plant）から申し込むことができる。

3 カリキュラムサポート室 開室日時

【平日】9：00～16：45
(祝日、年末年始除く)

【令和6年度 7月以降の開室日】

20247

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

20248

日	月	火	水	木	金	土
					1	2 3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

20249

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

202410

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

202411

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

202412

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

20251

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

20252

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

20253

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

...平日開室日 9:00～16:45

【問合せ先】

千葉県総合教育センター

カリキュラム開発部研究開発班

(TEL) 043-276-1282

(FAX) 043-276-1472

(MAIL) sosecurri_kenkyu@mz.pref.chiba.lg.jp

「授業づくり・学級づくりガイドブック」の御案内

県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発班

1 「ガイドブック」について

カリキュラム開発部研究開発班では、各教科・学校運営等に関する基礎的・実践的な調査研究と、社会の変化や本県の教育課題に即応した実践的な調査研究を行っている。調査研究の成果物として「授業づくりガイドブック」や「学級づくりガイドブック」等を総合教育センターホームページ上にWebアップしている。両ガイドブックは、先生方の日々の授業づくりや学級経営に役立つ資料となっていることから、御活用いただきたい。

2 「授業づくりガイドブック」について

(1) 概要

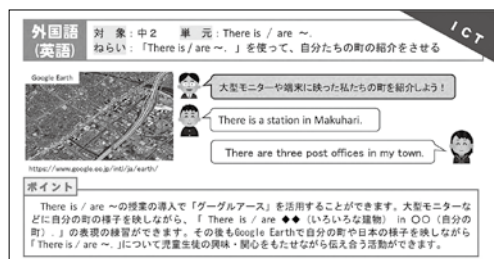
本ガイドブックは、児童生徒が「能動的に考える」授業を実践できるようにするための、授業づくりの「指南書」のようなものである。

(2) 内容

授業時における4つの学習過程（※「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」）における、具体的に効果的な「教師の働きかけ」を40例掲載されている。また、ICTを効果的に活用した最新の授業実践例を紹介している。授業を他教科でも応用できるような汎用性の高い活用例10例を示している。



【ガイドブック表紙】

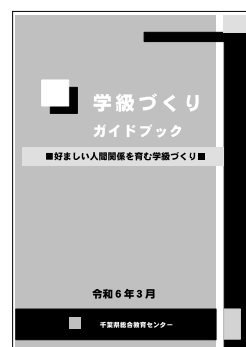


【ガイドブック内容の一部】

3 「学級づくりガイドブック」について

(1) 概要

本ガイドブックは、旧版（平成25年3月発行）の内容を大幅に改訂したものである。令和3年度から5年度までの3年間で行った調査研究「『好ましい人間関係を育む学級づくり』に関する研究」の成果をまとめたものである。



【ガイドブック表紙】

(2) 内容

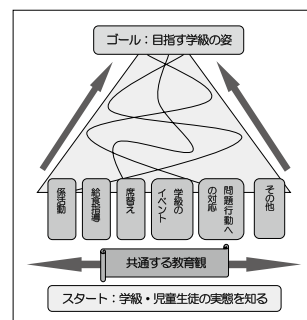
学級づくりにあたっての理論研究や実践事例の収集、また有識者の助言を基にまとめた内容となっている。

主に若年層を対象とした内容となっているが、学級づくりのために大切なポイントが網羅され、年代を問わず活用できるガイドブックとなっている。よりよい学級づくりのため

【目次】

- I はじめに（学級づくり理論）
- II 学級づくりの進め方
- III 学級開き
- IV 教師と児童生徒の信頼関係
- V 児童生徒同士の人間関係
- VI 主体的に活動できる学級
- VII 同僚・保護者との関係づくり
- VIII 資料

【ガイドブックの目次】



【ガイドブック内容の一部】

4 おわりに

まずは、下記の二次元コードを読み取り、ガイドブックを御覧いただきたい。

ガイドブックへとつながる二次元コード→



「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン」について

県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発班

1 「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン」とは

平成31年3月に、幼稚園教諭や小学校教諭等がお互いの活動を理解し、円滑な接続を図ることができることをねらいとして、「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン 5歳児の学びのカリキュラム スタートカリキュラム」を作成している。



【冊子表紙】

本冊子は、接続期のカリキュラムを「5歳児の学びのカリキュラム」と小学校における「スタートカリキュラム」に分け、それぞれのカリキュラムを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」でつなぐ構成となっている。多くの活動実践例が掲載されており、幼児教育や小学校教育に携わる先生方に活用しやすい内容となっている。

2 『接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン』の活用実践事例について

(1)概要

令和6年に「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン」の活用実践事例をWebアップしている。モデルプランを「基となる事例」として、各園の実態に応じて、魅力的な活用実践事例を

- 「樽でできたよ！さつまいも」
～畑のない住宅街エリアでの実践～
- 「脱穀・もみすり体験」
～田植えから餅つきまで～
- 「秋」
～おみこしごっこをしよう～
- 「巧技台遊び 自分たちだけのスペシャルコース」～コースを作ろう！やってみよう！～
- 「自分達の力で作った電気でイルミネーションをつけよう」
- 「幼小合同研修会」

【「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン」活用実践事例】

提示している。

本活用実践事例を参考にして、「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン」を御覧いただきたい。

「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン」の活用実践事例から1事例を紹介したい。

(2)活用事例

「自分達の力で作った電気でイルミネーションをつけよう」

モデルプラン「焼き芋会をしよう」では、畑で収穫した野菜に興味・関心をもたせるために「野菜電池」の実験を行った。本活用事例では、風力・水力・太陽光発電の実験キットを使って電力を作る実験を行っている。そして、



【ホームページより】

その後「自分達の力で作った電気でクリスマスツリーのイルミネーションをつけたい」という子供たちの思いを受け、園で開発した自転車発電機を使い、子供たち自身が一生懸命にペダルをこぎ、イルミネーションを点灯させた。見ている子供たちからは、大きな歓声があふれていた。

3 モデルプラン活用実践事例の掲載場所について

モデルプランの活用実践事例は、千葉県教育委員会や千葉県総合教育センターのホームページからダウンロードができるため、多くの先生方に御活用いただきたい。

「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン」の活用実践事例 アクセス用二次元コード→



千葉県児童生徒・教職員科学作品展から全国展へ

県総合教育センターカリキュラム開発部科学技術教育班

県総合教育センターでは、毎年「千葉県児童生徒・教職員科学作品展」を実施し、特に優秀な作品を全国展に出品している。以下、全国展で入賞した作品を紹介する。詳しくは各学校配付の千葉県児童生徒・教職員科学作品展「優秀作品選集」をご覧ください。

★第60回全国児童才能開発コンテスト科学部門

○中央審査会委員長賞

- ・「マメコブシガニの『子孫を残すための知恵』
ー水の生き物の研究3年目ー」

千葉市立緑町小学校 5年 中村 蒼太

審査評 興味のある題材を研究対象として、その行動観察や理由などを細かく検証している。自分の観察をもとにして検証を進めていく姿勢が素晴らしい。

○財団科学賞

- ・「切って たたいて 手作り楽き」

千葉市立みつわ台北小学校 3年 大川 瑞月

審査評 素材の形や太さ、長さによる振動数などの変化を多様に調べてまとめ、異なる金属で楽器を製作した。素晴らしい研究内容である。

- ・「クモの巣にきまりはあるの？～クモの巣について調べよう～」

千葉市立稲毛第二小学校 4年 吉岡 優真

審査評 7種類のクモの巣の形状や体長を調査、分析し、その結果から「巣の形状からクモの種類を特定するフローチャート」を作成した。

★第67回日本学生科学賞

○入選2等

- ・「護岸河川のイシガイ目貝類」

東邦大学付属東邦高等学校 3年

小野 亮太郎、白田 松太郎、松永 怜也

審査評 イシガイ目貝類がカゴマット工法

護岸に生息できる仕組みを、分布調査を基に仮説を立てモデル実験で検証し、明らかにしている。

○入選3等

- ・「アズキゾウムシは高度に産卵基質を選択する」

千葉市立千葉高等学校 2年

安部 和輝、荒川 慶太

審査評 実験デザインがしっかりしていて、着目する要因の効果を定量的に示している。アズキの皮をむくという視点もユニークで良い。

★第82回全日本学生児童発明くふう展

○奨励賞

- ・「頭と体を同時にきたえるバランス迷路」

市原市立牧園小学校 6年 中村 充

審査評 足踏みコントローラーの傾きをセンサーで検知して、迷路に信号を送るようプログラムされている。足の動きが迷路とうまく連動する。

○入選

- ・千葉市立美浜打瀬小学校 3年 小池 ひなた
- ・浦安市立北部小学校 5年 佐藤 優成
- ・市川市立市川小学校 5年 高橋 和花
- ・千葉市立草野小学校 6年 久米村 美和
- ・我孫子市立湖北台西小学校 6年 福野 琴美
- ・柏市立豊四季中学校 1年 樋口 航太
- ・松戸市立常盤平中学校 2年 林 克樹
- ・野田市立南部中学校 2年 幸松 隼治
- ・千葉市立川戸中学校 3年 青山 直樹
- ・白井市立七次台中学校 3年 上林 蓮斗

令和6年度千葉県児童生徒・教職員科学作品展一般公開は、10月19日（土）・20日（日）、県総合教育センターで行う予定である。ぜひご覧ください。

※**審査評**は「優秀作品選集」より抜粋。

教育相談事業の紹介

県総合教育センター特別支援教育部

1 はじめに

県総合教育センター特別支援教育部では、教育相談事業を実施している。場所は、子どもと親のサポートセンター内にある。いじめや不登校・心や体のこと等に関する相談は子どもと親のサポートセンターで対応し、特別な教育的支援を必要とする子供に関する相談は当センターで対応している。



2 教育相談事業の概要

教育相談は、当センターの所員及び相談員（公認心理師、言語聴覚士等）で対応している。

(1) 来所相談について

① 来所相談

保護者担当と子供担当の二人体制で行い、必要に応じて諸検査や関係機関との連携等を行っている。



② 医療相談

来所相談の内容により、精神科医・小児科医、視覚認知（見え方）に関する専門機関センター長による相談を行っている。

③ 出張相談

来所相談を重ねる中で、保護者から希望があった場合、本人の在籍する学校等に訪問して連携を図っている。本人の様子を参観したり、関係者会議を行ったりしてより良い支援方法を検討している。

④ 保護者懇談会

来所相談を利用している保護者を対象に、

千葉大学の細川かおり教授を招いて年に1回保護者同士で話し合う機会を設けている。

(2) 電話相談・メール相談

本人や保護者のほか、学校職員等からの相談にも応じている。

(3) 教育相談会について

県民に当センターの教育相談事業の周知を図るために、来所相談者以外の県民を対象とした「教育相談会」を開催している。当日は、教育相談のほか、「学習支援アプリやグッズ、玩具等の紹介」も行っている。

令和6年度は、9月26日実施予定である。



教材・教具の紹介

3 おわりに

子供や保護者の気持ちに寄り添うことを第一に相談活動を行っている。来所しているケースであれば、学校等と連携を図ったり、医療相談を行ったりするのも当センターの教育相談の特徴である。是非、御活用願いたい。

千葉市稲毛区小仲台5-10-2

（千葉県子どもと親のサポートセンター内）

来所相談：初回時は電話にて要予約

相談専用電話番号：043-207-6025

電話相談受付時間【月～金：9:00～16:30】

（祝日、年末・年始は除く）

メール相談：sosesoudan@chiba-c.ed.jp

開館50周年記念 特別展 「PROJECT UMINOUE 『五十嵐靖晃 海風』」 7月13日（土）～9月8日（日）

県立美術館



五十嵐靖晃《そらあみ〈島巡り〉》（瀬戸内国際芸術祭2019）

千葉県出身のアーティスト・五十嵐靖晃（1978～）は、人々との協働を通じて、その土地の暮らしと自然とを美しく接続させ、景色をつくり変えるような表現活動を各地で展開している。2005年にヨットで日本からミクロネシアまで約4000kmを航海した経験から“海からの視座”を活動の根底としている。樟の落ち葉を掻いてかつて存在した千年樟をみんなで協働して描き出す、今年で15年目を迎える太宰府天満宮のプロジェクト「くすかき」、参加者と協働で漁網を編み、網の目を通して土地の風景を捉え直す「そらあみ」、古くから地域に伝わる弁天信仰を住民とともに再構築する熊本県津奈木町のプロジェクト「海渡り」など、アーティストが媒介となることで、土地を想う人々の心を重ね、つなぎ、未来へと継承する活動を全国で行っている。

本展は、五十嵐がひとつの航海にもなぞらえる全国でのさまざまな活動を経て、地元である千葉に戻り、千葉に向き合うひとつの節目となる。県立美術館の開館50周年を記念したアートプロジェクトであり、当館と当館が位置する千葉みなとエリアのリサーチに基づ



寒川神社例祭「御浜下り」撮影：みさこみさこ

いた新作を発表する。東京湾を臨む千葉みなとの港湾に位置し、県民のための明るく親しまれる美術館を目指して開館した県立美術館は、地域と共に何を積み重ねてきて、どこへ向かうのか。数多くの作品を所蔵する美の殿堂であると共に、房総の地域性を基盤に、人々の行き交う場として、変革期にある美術館のひとつの挑戦とも言えるかもしれない。

本展は、「かつての海の上である埋立地に新たな文化をつくる」を基本コンセプトに、千葉みなとエリアを舞台として開催する回遊型美術展覧会である。大高正人による美術館建築を象徴する第7展示室の建築空間を存分に生かしたインスタレーション作品、美術館コレクションとのコラボレーション、屋外作品、参加型ワークショップ、地元祭事との連携イベントなどで構成する。県立美術館の開館50周年を記念して、地元住民と来訪者との交流やアートを介した協働を通じて人と人、人と土地とのつながりを見出し、千葉みなとの魅力を楽しみながら、埋立地ならではの新たな文化を創造することを目指す。

特別展「万祝^{まいわい}博覧会ー海をまとうー」 7月27日（土）～9月29日（日）

県立中央博物館

江戸時代の房総半島で誕生したという漁師の祝い着「万祝^{まいわい}」。鶴亀や宝船、海などを大きく描いた着物で、鮮やかな色彩が特徴的だ。大漁などの慶事のご祝儀として船主から船子や親類縁者へ贈られたこの着物には、海に生きる人々の喜びや誇りが詰まっている。

漁師の祝い着の文化は青森県から静岡県まで広まり、各地でカンバン・大漁バンテンなどの呼称や新たなデザインを生み出し、地域ごとのオリジナリティをもって発展した。万祝を贈る習俗は昭和30年代に失われていったが、現在も郷土芸能などに万祝を着る文化が見られるほか、万祝の染色技術を継承する「紺屋^{こうや}」が残り、デザインを未来へ残す新たな取組も始まっている。

本展示は、県内外の各地域に残る色鮮やかで魅力的な「万祝」が一堂に会する初の展示である。さらに、[様々な視点から万祝をみる]をコンセプトとして、漁師の文化だけではなく、海を通じた文化の伝播、染色技術やデザインの継承など、多方面から万祝を取り上げ、海とともに生きる房総の人々の精神文化を紹介する。

また、夏休み期間は毎週末、万祝の試着体験や子供も楽しめるイベントを実施する。

1 大漁の祝い

江戸後期の房総半島で生まれたといわれる万祝。誕生の背景にある漁業文化や、大漁祝いの習俗について紹介する。

2 万祝文化圏

紺屋の営業活動や漁師・漁業会社の移動を

通じて、大漁の祝い着の文化は各地に広がった。地域によって呼び方にバリエーションが生まれ、各地で制作された祝い着は、独自の模様や「型」を作り出し、発展していった。各地の万祝から、地域ごとの特色を紹介する。

3 紺屋^{こうや}の仕事

万祝を染める染物屋を紺屋^{こうや}という。県内に残る日記資料をもとに明治時代における万祝の注文過程を紹介するほか、現代の紺屋の染色道具と染色技術を取り上げる。

4 万祝の新たな地平

漁業の文化としては衰退した万祝だが、新たな意味をもって今に生き続けている。美術の題材、民芸蒐集品、染色技術とデザイン、そして郷土芸能を彩る衣装など、いずれも万祝に特別な価値が見出され、地域を象徴する文化として大切に受け継がれている。様々な万祝の今を紹介する。



「万祝」千葉県立中央博物館所蔵